

研修のご提案

自治体職員のための未来予測の進め方 ～実践「未来推想法」～（案）

2025年5月

スクリーボ合同会社
小笠原雅則



Scribo,
ergo sum

研修企画の背景

- お世話になっております。スクリーボ合同会社の小笠原雅則と申します。
- 私は、株式会社野村総合研究所（NRI）に38年間在籍し、そこで年1回発行される「NRI未来年表」の制作に当たっていました。「NRI未来年表」とは、世界各国の政府機関・研究機関等が発表している数多の未来予測の中から枢要なものをピックアップし、そこにNRIの独自予測数値も加え、それらを一覧できる年表の形に取りまとめたものです。
- 在職中から、社員のスキルアップのため、この年表を活用した研修を実施してほしい、という要望が様々な企業や自治体から寄せられていました。
- この度、『企業・自治体職員のための未来予測の進め方』（中央経済社刊）を上梓するに当たり、上記のニーズに応えるべく、本書の内容をもとに、誰もができる未来予測の手法をパッケージ化した研修を企画致しましたので、ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

講師略歴

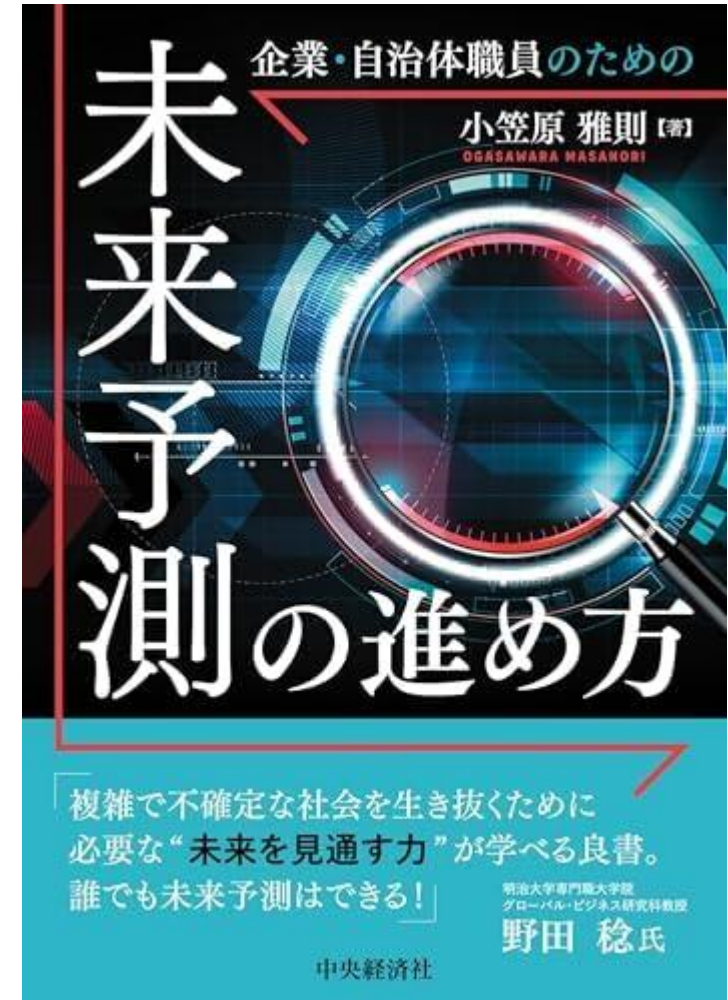
- 1986年 早稲田大学政治経済学部卒業
- 1986年 株式会社野村総合研究所（NRI）入社。「経営コンサルタント」に
 - 大企業・中央官庁・地方自治体・公的団体等の経営コンサルティング業務に従事
- 2001年～ 同社「広報課長」に
 - 2001年の「全米同時多発テロ事件」、「NRI東証一部上場」等の広報対応を最前線で指揮。同時にスポークスマンとしても活躍
- 2004年～ 再び同社「経営コンサルタント」に
- 2011年～ 同社「人材開発部」で主に役員・部長研修の企画・運営を担当
- 2015年～ 同社「コーポレートコミュニケーション部」で編集者に
 - 月刊『知的資産創造』の編集、『NRI未来年表』等の制作を担当
- 2023年 同社定年退職。「スクリーボ合同会社」を設立
現在、「コンサルティング」と「ビジネスライティング」を柱として活躍中

この研修のねらい

- 現代は、変化の激しい「VUCAの時代」。このような時代において、企業や地方自治体が持続的に成長し、変化をチャンスに変えていくためには、未来の姿を見通して、戦略を立てることが不可欠です。
- この研修では、未来予測の基本的な考え方から、具体的な手法、そして未来予測をビジネスに活用する方法までを体系的に学ぶことができます。過去の延長線上にはない未来を予測することは容易ではありませんが、本研修を通じて、未来を「予測」するのではなく、「探索」し、「創造」する力を身につけることができます。未来予測の手法を身につけることは、企業や自治体の運営に携わる人にとって、羅針盤を持つようなものです。
- 変化の激しい時代だからこそ、未来を見据え、自らの手で未来を切り拓く力を身につけませんか。

著書『企業・自治体職員のための未来予測の進め方』の内容がベースになります

- 私が野村総合研究所（NRI）で培った未来予測のノウハウをまとめた著書『企業・自治体職員のための未来予測の進め方』（中央経済社、2025年3月刊）の内容が、この研修のベースとなります。
 - ◆丸善・ジュンク堂書店51店舗を含め、全国の主要書店で絶賛発売中



なぜ自治体職員に未来予測が必要なのか

- 地方自治体に対しても、独自の未来予測を実施する要請が高まってきています。2020年の第3次地方制度調査会の答申に、各地方自治体が従来の一般的な地域計画から踏み込んで、長期的・客観的データに基づいた「地域の未来予測」を実施することで、住民との間で深い議論ができるようになることを求めているのです。
- 2024年6月時点で、11か所の県や政令市クラスの地方自治体が独自の「地域の未来予測」に取り組み、結果を公表しています。この動きは都道府県全体、更には一般の市町村クラスにも広がっていくことでしょう。
- 首長が変わるタイミングと総合計画立案のタイミングが合致した時などが、自治体が独自に「地域の未来予測」に取り組む絶好のタイミングなのではないでしょうか。

「地域の未来予測」を効率的に進める方法

□「地域の未来予測」を作成していない理由

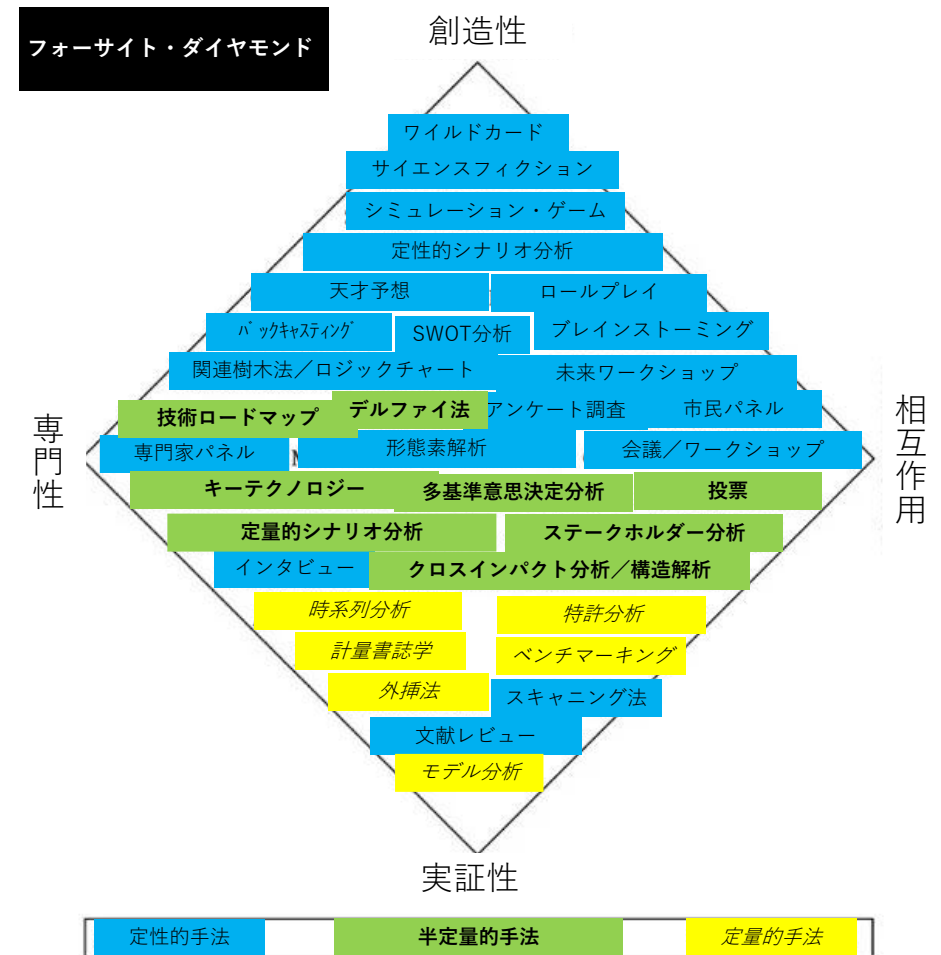
- 作成のイメージがわからないため、先進地として取り組んでいる地域について、事例を紹介いただきたい
- 作成に関するノウハウが不足しているため
- 地域の未来予測を広域で作成する手順がわからない
- 地域の未来予測の必要性は感じるが、直近の業務にしか手が回らず、作成する余裕がない

➤総務省のアンケート調査（2022年）より

- ・上記の悩みにも対応するのが、この研修なのです。

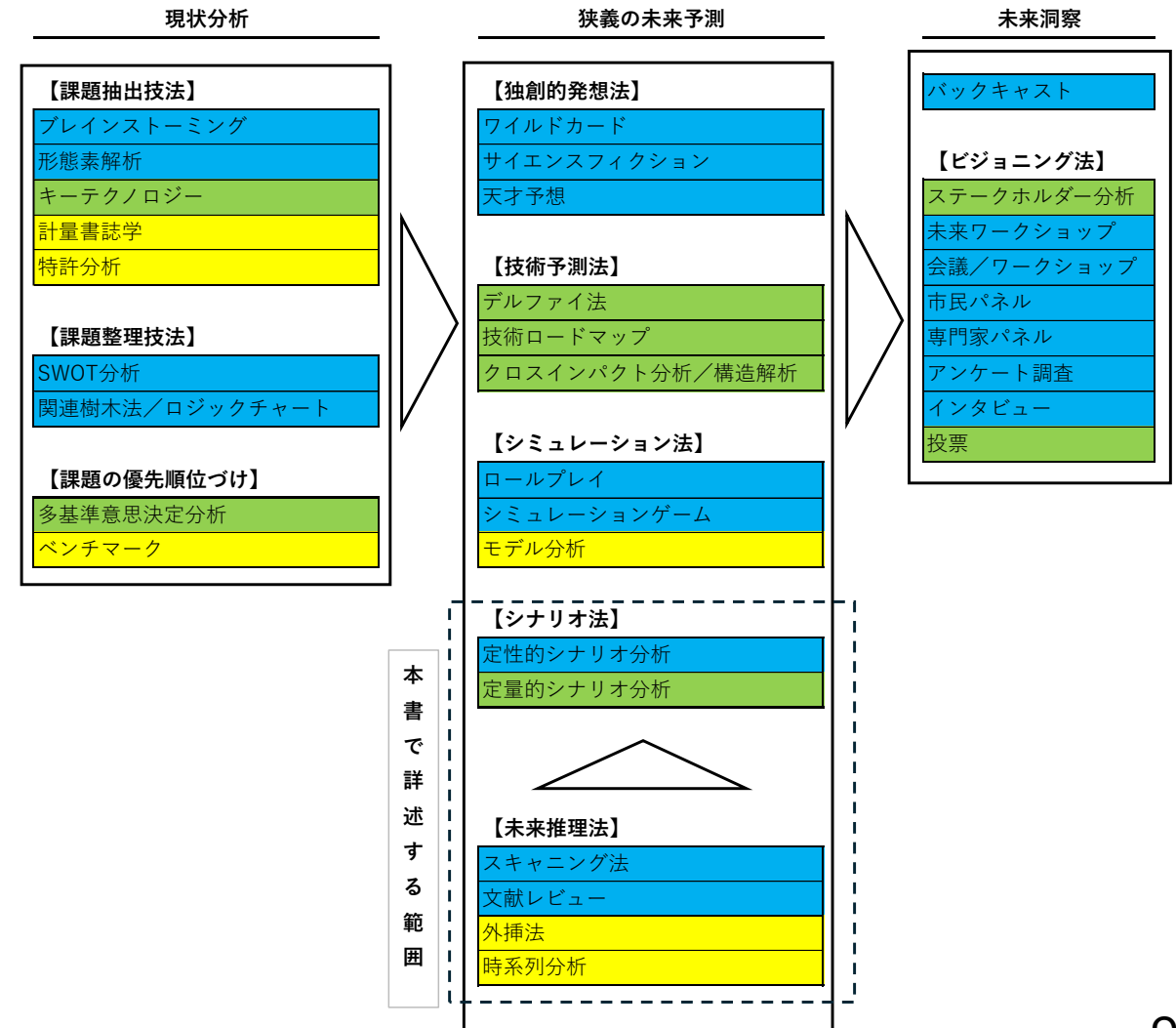
未来予測を身近に：取り組みやすいアプローチ

- 未来予測研究の第一人者、ラファエル・ポパー博士は、未来予測手法を33種類取り上げ、それらを創造性（Creativity）－実証性（Evidence）、専門性（Expertise）－相互作用（Interaction）の二軸で整理し、「フォーサイト・ダイヤモンド（Foresight Diamond）」という形で公表しています。
- 未来予測手法の中には、「創造性」や「専門性」、「相互作用」（複数人の知恵を集める）をあまり必要とせず、一人で実施できる「実証性」に富んだ手法があります。



33種類の中でも実証性が高い「未来推想法」

- 33種類の未来予測手法を再整理し、誰もが取り組みやすい「実証性」の高い手法を抽出したのが「未来推想法」です。
- この「未来推想法」を活用して、実際に自分で未来予測を試みるのが、この研修なのです。



研修対象者

- この研修は、
 - 若手・中堅職員のスキルアップのため、階層別研修の一部として
 - 総務・企画部門の担当者のスキルアップ研修の1つとして
 - 部課長クラスの上級幹部職員研修の導入部として

最適です。

研修プログラムの内容

- この研修プログラムは次の 3 つのパートから構成されています。

- ① 講義パート

- ② 課題設定パート

- ③ ワークショップ・パート

各パートでは具体的に何をするのか（その1）

①講義パート

- まずは書籍の記述に基づいて、33の未来予測手法について概観します。
- 特に、「未来推算法」に含まれるスキャンニング法、文献レビュー、外挿法等がいか
に実践的で、誰でも活用できるものなのかを解説します。

②課題設定パート

- 講義の後、受講者に実際に未来予測をしてもらうための課題を設定します。
- 例えば、「自分の自治体の20年後の姿」という全体テーマの場合、それを予測する上で必要な未来予測データ（人口予測、環境予測、インフラ整備予測、等）の分析を、受講者ごとに設定します。
 - 個人ワークの場合は1人1タスク、グループワークの場合は1チームで1～2タスク。
- 講師は、どのようなデータがあるのか、どうやって探すのか等を教えるだけで、原データ探索からやってもらいます。

各パートでは具体的に何をするのか（その2）

③ワークショップ・パート

- 設定した課題に沿って、受講者は実際に未来予測データをハンドリングし、そこから見えてくる未来像を記述します。
 - 個人ワークでもグループワークでも可。
- 記述した未来像について発表し、受講者間でディスカッションをします。
 - 講師は、適宜ディスカッションをファシリテートします。
- その未来像の展望から得られた知見をもとに、受講者は「自分の自治体の20年後の姿」をイメージして、それを1ページ程度で記述します。これが「最終成果物」です。
 - 個人ワークでもグループワークでも可。講師が適宜ファシリテートします。
- それぞれの最終成果物について、各人・各グループで発表し、それを講師が講評します。

研修コース（案）

本研修は各自治体の課題やニーズに合わせたカスタマイズが可能です。
ここでは一般的なスタイルの研修コースとして、以下の2つのコースを提案致します。

- 1日コース（フルリモート）
 - 10名以内（1チーム4～5名）を想定
- 1日半コース（リモート+オンサイト）
 - 20名程度（4～5チームの編成が可能）を想定

1日コース（フルリモート）の内容（案）

• 午前中（9:00～12:00）

- アイスブレイク（9:00～9:10）
- 講義（9:10～10:40）
- 休憩（10:40～10:50）
- 個人課題設定（10:50～11:00）
- 個人ワーク（11:00～12:00）
 - ✓ 各受講者が与えられた未来予測の課題につき、原データを分析する
 - ✓ 原データの探索から自分で行うか、講師が原データの提供までは行うかは、運営サイドと要相談

• 午後（13:00～17:00）

- 個人ワーク（続き）（13:00～14:00）
- 課題の成果発表・講評（14:00～15:00）
- 休憩（15:00～15:10）
- グループディスカッション（15:10～16:10）
 - ✓ 「自社の20年後の姿」をグループ（受講者全員）で議論し、取りまとめる
- まとめの成果発表（16:10～16:40）
- 講評（16:40～17:00）

※開始・終了時間、時間配分等は運営サイドと要相談

1 日半コース（リモート+オンサイト）の内容（案）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 1 日目（10:00～13:00）<ul style="list-style-type: none">➤アイスブレイク（10:00～10:10）➤講義（10:10～11:40）➤休憩（11:40～11:50）➤グループ課題設定（11:50～12:00）<ul style="list-style-type: none">✓課題設定後、次回（2日目）までの間に受講者は各グループで作業 | <ul style="list-style-type: none">• 2 日目（9:00～17:00）<ul style="list-style-type: none">➤アイスブレイク（9:00～9:10）➤グループディスカッション（9:30～10:00）<ul style="list-style-type: none">✓ 成果発表の前の最終確認➤課題の成果発表（10:00～11:00）➤休憩（12:00～13:00）➤グループディスカッション（13:00～14:30）<ul style="list-style-type: none">✓「自社の20年後の姿」を各グループで議論➤休憩（14:30～14:40）➤まとめと成果発表（14:40～16:30）➤講評（16:30～17:00） |
|--|--|

※1 日目はリモート、2 日目はオンサイトを想定

※開始・終了時間、時間配分等は運営サイドと要相談

※1 日目と2 日目の間は1 週間程度空けて、受講者が作業できる日程を確保する

研修費用：応相談

- 研修費用につきましても、最適なプランをご提案させていただきますので、ご相談下さい。

※受講者 1 人当たり費用の目安（税抜き）

- 1 日コース（フルリモート）の場合： 2 ～ 3 万円
- 1 日半コース（リモート+オンサイト）の場合： 4 ～ 5 万円

お問い合わせ先

おがさわらまさのり

スクリーボ合同会社 業務執行社員専務 小笠原雅則

メールアドレス : masanori-o@scribo.co.jp

電話番号（会社代表） : 090-4057-5159

※誠に恐縮ですが、お問い合わせは、可能な限り電子メールにてお願い申し上げます。